

2025年12月12日  
住友生命保険相互会社

## 「CDP2025（気候変動）」において最高評価となる 「Aリスト」企業に選定

住友生命保険相互会社（取締役 代表執行役社長 高田 幸徳、以下「住友生命」）は、国際的な非営利団体 CDP<sup>※1</sup>にて行われる気候変動分野の調査において、最高評価である「Aリスト」企業<sup>※2</sup>に初めて選定されました。



※1 CDP (Carbon Disclosure Project) は、世界の企業等に対し、気候変動、水、森林等に関する情報開示を促すとともに、協働エンゲージメントを行うイニシアティブです。

※2 Aリスト企業とは、CDPが実施する環境情報開示評価で「最高評価（A）」と認定された企業のリストを指します。

住友生命は、地球環境が持続可能な社会の基盤になるとの認識のもと、環境負荷の低減や生物多様性等への配慮を進めています。

事業活動においては、温室効果ガス排出量削減に向け再生可能エネルギーの導入や紙使用量の削減、営業活動において燃費性能に優れたハイブリッド車等のカーリースを導入するなど、さまざまな取組みを推進しています。

機関投資家としては、再生可能エネルギー関連のプロジェクトファイナンスや温室効果ガス多排出企業の脱炭素化に向けた移行を支援するトランジションファイナンス等、気候変動対応ファイナンスを積極的に推進するとともに、投融資先の脱炭素化に向けた対話にも注力し、カーボンニュートラル社会の実現を進めています。

こうした取組みによって、温室効果ガス排出量の2050年ネットゼロを目指し、その中间目標として、2030年に50%削減（2019年対比）という目標を定めています。

住友生命は、今後もすべてのステークホルダーのウェルビーイングを支える取組みを推進し、「よりよく生きる」ことへの貢献を通じて、持続可能な未来の実現を目指します。

以上